

令和2年度第1回栗東市総合教育会議

開催日時	令和3年1月29日（金） 15:00～16:15
開催場所	危機管理センター3階大研修室
出席者	市長 野村 昌弘 教育長 福原 快俊 教育長職務代理者 太田 加代子 委員 内記 一彦 委員 田中 和子 委員 朽木 徳壽
事務局出席者	市民政策部長（木村）、秘書広報課長（佐藤） 教育部長（伊勢村）、子ども青少年局長（川崎） 教育部次長兼スポーツ・文化振興課長（片岡）、教育総務課長（福田） 学校教育課長（田中）、学校教育課参事（平子） 学校給食共同調理場所長（井上）、人権教育課長（岸田） 生涯学習課長（三浦）、幼児課参事（本山） 図書館長（西村）、学校教育課課長補佐（中川） 教育総務課係長（小林）

福田教育総務課長

定刻には少し早いですけども、おそろいになられましたので、ただいまから令和2年度第1回栗東市総合教育会議を開催いたしたいと思っております。

皆様方には、御多用の中御出席をいただき、誠にありがとうございます。

次第に沿って進めさせていただきます。まず、開会に先立ちまして、野村市長から御挨拶を頂きます。

野村市長

改めまして、皆さん、こんにちは。大変お忙しい中、栗東市の総合教育会議お願いをいたしましたところ、こうして皆様方には御参集いただきました。特に教育委員会、教育委員の皆様方には本当に御出席賜りましたこと、厚く御礼を申し上げます。

先ほども言ってましたが、いつも毎年内記委員から宿題をいっぱいもらいまして、内記委員さんから頂きまして、いろんなことを大変な宿題やなと思ったんですけど、一つ一つ難題であってもクリアしていくことが大変重要やなということを改めて痛感をしております。みんなで一緒になって頑張っていく中で、乗り越えていかなあかん壁というものがいっぱい出てまいります。今回今日の議題にあります教育方針から子育て教育Nextプロジェクト

トについてなど、ともに手を携えてやっていかなあかん課題というものがいっぱいあるかと思えます。特に新型コロナウイルスの関係について今、一生懸命やらせていただいているわけですが、今現在で110名の栗東市の中での患者さんがおられる、11になった、もう。110名の患者さんがおいでになるわけですが、そうした状況をこれから先、やっぱり今まではかかったらあかん、予防、そして対策ということばかりやったんですけど、これだけの数が出てくると人権問題、こうしたものにもやっぱり手をつけていかなければなりませんし、みんなでケアをしていく状況というものは、学校やこれから園なりいろんなところでどういうふうに影響がついてくるか分からないと思えます。こんな状況の中であって、今を預かる私たちが何をしなければならないのかいうことを考えて行動する、実行する、このことが大変重要だと思います。今日おいでの教育委員の皆さんはじめ、職員みんなが一緒になって、このことを守り、そして市民の人をやっぱりそんな目に遭わさない、そんな環境をつくっていきたい、このように思っているところでございます。

本日、いろんな形でこうした会場でもっともっと膝を突き合わせていろんなお話をさせていただかなければならないところでございますが、できるだけ短時間の中で皆様方のいろんな御意見を聞かせていただきたいと思えます。お世話になります、よろしく願い申しあげ、私から一言冒頭に当たりますの御挨拶とさせていただきます。

本日は教育方針も私も聞かせていただきます。教育長の思いがずっしりと積もったものになってこようかと思えますので、私、この予算編成大体こんでくったんですけど、教育委員会の教育に関係する予算は結構ちゃんここは重点に置いてつけてきたつもりでございます。どうぞいろんな面で御指導御鞭撻いただきますことをお願い申しあげ、冒頭に当たりますの御挨拶とさせていただきます。本日もよろしく願います。

福田教育総務課長

ありがとうございました。

それでは、本日の議題に入らせていただきます。ここからは栗東市総合教育会議設置要綱の規定に従いまして、会議の議長を市長をお願いいたします。

(議長：野村市長)

それでは私のほうから進行のほうを務めさせていただきます。大変不慣れでございますが、皆さんの議事進行に当たりますの御理解と御協力を切によろしくお願いを申しあげ、座らせていただいて進行のほうさせていただきます。

それでは、議題1、「令和3年度 教育方針（案）について」、説明をお

願います。

福原教育長

令和3年度の栗東市の教育方針（案）につきまして、ただいま教育委員会で検討いただきまして、御承認をいただいたところでございますが、今年度の教育方針の中に特に私たち教育委員会が重点として盛り込んでいきたいなと思っている部分につきまして、ちょっと個別に説明をさせていただきたいなというふうに思います。大変、はしょった説明になるかもしれませんが、どうぞよろしく願いいたします。

まず、このホームページ用と書かせていただいたほうの資料を御覧いただきたいんですが、この1ページのはじめにという部分でございます。ここにはいつも全国的な課題とこの栗東市の課題ということを併せて書いていただいておりますが、まず、今年度は何といたしましても今も市長からありましたように、この世界的な規模で新型コロナウイルスの感染症が広がってまいりまして、これが我が国の社会全体に大きな影響を与え、具体的に言いましたらやはり対面を避ける、集まることを避ける、マスクをした状態で顔が見えないような状態、あるいは仕事もテレワーク、会議もリモート会議というようなことで、人と人との関係をつくるつくり方が社会全体で変わってきたのではないかと、このことが今までの学校教育に関わります様々な課題と相まって、一緒になりまして、人間関係づくり、人と人との付き合い方に新しい形を求めていくということが子どもたちの生活に教育に大きな影響を与えるであろうと、そのことを大変心配するということから話を始めております。これまでの課題に加えまして、このような新しい社会というものをどういうふうに受け止めていくのかということが1つの大きな課題になってくるかなというふうに考えたわけでございます。そのほか、これまでの大きな自然災害、安全安心をどのようにつくっていくかという課題、それからスポーツ・文化、オリンピックも現在は延期をされましたが、これをどのように取り組んでいくのか、あるいはこういうような変化の中にあっても1番の一番下にありますが、変化の中にあってもやはり教育は変わらない目的を1つ持たなければいけないであろうと、最終的に一人一人の人格の完成、これを目指していくものでなければならない、一人一人が大切なかけがえのない存在であるということをお大切にしながら、それからは、それから豊かな人間性、今申しました人と人とのつながりをどのように大事にしていくかということは、社会の状況が変わりましても大切にして、将来国のために栗東市のために主体的に力を発揮してくれる国民、市民を育成するものでなくてはならないだろうというふうに結ばせていただきました。

栗東市の課題としましては、2番になりますが、この中では人口は増加し

てまいりましたが、子どもたちの人口は若干減少局面に入っているということで受け止めさせてもらっています。ここにおきましても栗東市も新型コロナウイルスの影響を受けて考えなければいけない問題は先ほどの全国的な規模の問題と一緒にございます。これからの社会を築いていくに当たって、新しい人間関係の新しいコロナ後の社会ということではありますが、やはり仲間とともに自分の考えを共有できる、そんな人を育成していくべきであろうというふうに考えております。

この2ページまでのことを受けまして、3ページの基本方針3つを今までと同様でございますが、一番に人権、同和教育、平和教育の推進、2つ目に心豊かにたくましく生きる人を育てる一貫した教育ということを挙げさせていただきました。3つ目に郷土を愛し、充実した人生を拓く生涯学習、社会教育の推進、この3つを基本に重要な柱として教育を進めていきたいということでございます。これは大きく変わるものではございません。

ちょっと4ページに参りまして、具体的な取組の中で今年度やはり注意をしなければいけない点、考えなければいけない点ということで挙げさせていただいている部分を説明させていただきます。

4ページの具体的な取組1番の人権同和教育では、やはりこの感染症発生時における誹謗中傷、あるいは子どもたちがそのことで非常に心が傷つくというような状況、あるいはインターネット社会のSNSを利用した誹謗中傷ですとか、あるいはネットの中での悪質な差別事象、こういうようなものに具体的に取組んでいかなければいけないというふうなことを考えております。

それから、4ページの(3)にあります、人権同和教育及び啓発の充実の中で、今年度は栗東市人権同和教育基本方針、それから第五次輝く未来計画の5カ年計画第五次の初年度に当たります。この計画に基づいて新たな構想で人権、同和教育、啓発のあり方、進め方について見直しを進めてまいりたいというふうに考えています。

5ページでございます。

就学前教育につきましては、1番2番3番というふうにご書かせていただいた生涯にわたる生きる力の基礎づくり、自立に向けた先生の働きかけ、3つ目の連続性、一貫性のある教育・保育というところで今年度進めてまいりました教育部局とそれから子育ての子ども青少年局、そして福祉の4つの連携・協力を進めていく中で、子育て教育ビジョンをつくりまして、今まで進めてまいりましたくりちゃん元気いっぱい運動、そして子育てのための12か条の取組をさらにこれを継続深めていくということで、子育て教育ビジョンを作成しまして、ゼロ歳から15歳を経て成人になるまでの一貫した育ち、成長、教育を支えていくという、一貫した働きかけをこの就学前から開始し

ていくということで教育と連携を進めているところでございます。

さらに、職員の専門性の向上ということで、人材の確保、資質の向上についてももちろん努めてまいりたいということでございます。この就学前教育の中で1つ御指摘を頂いたのが、説明の箱の上のところに書いてあります非認知能力を育ててまいります、これは子どもたちが遊びを通して学んでいく中で、なかなか表に見えにくい力、けれども生きていく前向きな姿勢を持ってもらうために必要な見えにくい力と、いわゆる学力とは違う見えにくい力を育てていかなければならないというこの言葉がちょっと難しいのではないかと御指摘を頂きましたので、このことについては説明の部分をつけ加えさせていただきたいなというふうに思っています。

3つ目になりますが、学校教育の充実では、これも今の子育てと同じでございます。子育てのための12か条の従来の取組を整理、再編して、それを大切にしながら栗東市子育て教育Nextプロジェクト、一貫した成長を支える仕組みづくりを進めてまいりたいというふうに考えています。

さらに、その下にございます、確かな学力の育成の中で、今年度までにGIGAスクール構想ということで、国の補助も頂きながら大変栗東市のほうでも努力をしていただきまして、市長の号令もございまして、1人1台のタブレットを利用したICTツールを利用した学習の情報化、個別化、最適化を進めてまいりたい、どのようなことができるかについて、様々な発想が考えられるかと思いますが、これを確かな学力につなげていきたいなというふうに考えているところでございます。

6ページでございます。

もう一つ、豊かな心の育成ということで、中の文書の下から2行目、3行目になるんですけど、最後のところでございますが、好奇心や想像力、忍耐力、コミュニケーション力、自制などの非認知能力の育成をと、中学校単位で家庭・地域・園・学校で進めていきますという、ここにも非認知能力という言葉を使わせていただきましたので、これも少し説明を加えさせていただきたいと考えているところです。

健やかな体の育成、4番目の子どもたちの育ちを支える取組ということで、これまで栗東市は自信を持って進めてまいりました児童生徒支援の充実、いじめ防止の基本方針に基づく、いじめを許さない学校づくり、それから特別支援教育の推進計画に基づきます特別支援教育の充実に努めてまいりたいと思います。

5番目の信頼される学校づくりの中にも、ICTツールを活用したというふうに書かせていただきましたが、これも今言いましたGIGAスクールで配置されましたICTツールを活用して、不登校になっておられる子どもさ

ん、学校に来られないで悩んでいる子どもたちの支援に何とかつなげていきたいということを考えているところでございます。

6番目の教職員の資質向上、それからこれも先ほど、学校の働き方改革を推進しながら、同時に教員の資質の向上に努めてまいりたいなというふうに考えています。

7番目の教育環境の充実ですが、これは施設の整備、施設の管理維持を教育総務課のほう中心に進めていただきたいと思います。学校給食も安心安全で栄養バランスの取れた給食、それから給食を教材としての食育の推進にますます努めてまいります。

4番目の生涯学習の充実では、1番の誰もが参加できる生涯学習授業の講座の充実というところで、はつらつ教養大学をはじめとしました生涯学習事業、あるいは親子で参加できる講座の充実ということに努めていただきます。

それから、2番目の読書環境の充実ということでは、図書館の基本的運営方針、これを今年度第2次の栗東市立図書館基本的運営方針の策定に取り組んでもらい、子どもたちの読書活動には第3次の栗東市子ども読書活動推進計画に基づいて、また児童書の収集、提供を行いまして、自主的な読書活動が推進できるように支援していきたいというふうに考えています。

3つ目の環境学習施設の充実につきましては、自然、森の未来館、それから森林環境学習のやまのこ事業ですね、それから自然観察の森でのイベント等を通じて貴重な環境学習の場を有効に利用してまいりたいというふうに思っています。

8ページでございます。

5番目の青少年の健全育成につきましては、子育て、家庭教育への支援ということで、これも先ほど申しました栗東市子育て教育Nextプロジェクトの取組を子育て支援を図るという、そういう点で進めていきたいなということを考えています。

2番目の青少年の非行防止と健全育成ということでございますが、これもこれまでの大変暴力的な反社会的な問題行動というよりは、どちらかといいますと非社会的な、閉じ籠もってしまいがちな問題、あるいは虐待であるとか、そのような課題にも応えられる健全育成の関係機関との連携を深めていきまして、健全育成に努めてまいりたいなというふうに考えています。

6番の生涯スポーツの振興でございますが、これにつきましては、先ほどありましたように国民スポーツ大会、全国障害者スポーツ大会の準備につきまして、栗東市民体育館の改修も含めて準備を進めてまいりたいというふうに考えております。

最後、9ページでございます。

7番目の市民文化や芸術活動の振興ということで、今年度は1番にあります文化振興計画に基づきまして、文化芸術活動に参画できる機会の提供、自主的な活動を行うための組織の充実ということで取り組んでまいりたいと思っております。

それから、さきらですね、文化芸術会館、さきらを文化芸術活動の拠点としまして、さらに市民の市民に親しまれる芸術文化事業の推進に取り組んでまいりたいと思います。

8番目の文化遺産の保護につきましては、今年度は、文化財の防火訓練も中止になってしまいましたですけれども、防災、防犯に対する意識の高揚と設備の充実についてさらに進めてまいりたいと考えていますし、埋蔵文化財も企業立地等が進んでまいります中での発掘作業等が進む中で調査を行い、出土した遺物の適切な保存ということで、進めてまいりたいというふうに考えています。

それから、本年度は文化財の調査研究と活用につきまして、今年度から文化財保存活用地域計画の策定を行いまして、令和4年完成を目指しましてさらに取り組んでまいりたいというふうに考えているところでございます。

はしょってしまいましたですけれども、本年度の教育方針ということで事業の取組につきまして御説明をさせていただきました。

(議長：野村市長)

ありがとうございます。

先ほど教育委員の皆様方、既に協議をいただいているということですので、こうして私自身、市長部局に教育方針を今日示していただいたというふうに受け止めさせていただきます。

この際ですので、何かありましたらお聞かせをいただきたいと思います。よろしいですか。

はい、それでは次に移らせていただきます。

その次に2番目、栗東子育て教育N e x tプロジェクトについて、説明のほうをお願いします。

最初、教育長のほうからお願いします。

福原教育長

それではまず最初に概要を私のほうから御説明をさせていただきたいと思っております。

資料は2番でございます。

子育て教育N e x tプロジェクトにつきましては、現在の教育課題は栗東市の課題と全国的には大きく変わることはございません。一層少子高齢化が進んでまいりますし、ますます高度な情報化が進んできます。その中で子ど

もたちの教育の問題はますます難しい局面に入ってまいります。そんな中で、子どもたちを将来未来の栗東市のまちを支えてくれる、そういう人に育ってもらうために、子育て、保育、学校教育、それから青少年の健全育成というものが一つにつながって同じ目標を共有しながら進めていければということをも基本に考えているところでございます。

そこで、ゼロ歳から15歳を経て成人になるまで一貫した成長を支えていけるように、子育て支援、あるいは家庭教育いうところにつきまして経済的な視点、あるいは福祉的な視点で考えていますが、さらにここに教育的な視点で支えられない、それから実際に保育、教育、生涯学習を目標を共有していけない、目標を共有していかなければならないというふうに考えているところでございます。

それから家庭、地域、園、学校の目標の共有。これが大変重要です。この一貫した目標設定をこれまでの取組にプラスをしまして、目標設定をした上で取り組んでいただけるようにと考えているわけです。実際にはこれまで子育てのための12か条で、目標を設定いたしました。それをさらに具体的にそれぞれの年齢に応じた形で進めていけないかということで、この子育て教育Nextプロジェクトでは、育ってほしい、このようになってほしい、栗東市を支える人になってほしいという目標に向かってみんなが幼児教育も保育も家庭教育も小学校も中学校も高等学校もそして生涯学習もみんなで心と力を育て、成長を支えていけるような環境づくり、教育づくりをしていきたいなというふうに考えて立ち上げたものでございます。具体的な取組につきましては、事務局のほうから説明をさせていただきたいと思っております。

#### 平子学校教育課参事

それでは、具体的な取組について御説明させていただきます。

資料につきましては、栗東子育て教育Nextプロジェクト、教育部と子ども青少年局の協働による栗東子育て教育ビジョンの構築の冊子、3番の栗東子育て教育ビジョン（目指す栗東の子）試案、裏面に栗東子育て教育Nextプロジェクトを始めるに当たってをカラーで印刷させていただいたものを準備させていただきました。

栗東市独自の子育て教育の連携事業を代表するものとして、平成18年にスタートしたくりちゃん元気いっぱい運動がでございます。その第1弾は早ね・早おき・朝ごはん、第2弾はきらりフルチャレンジでございました。第3弾はありがたいと言える子育てで、市内で発生する問題行動の解決に向け、感謝の気持ちや反省の態度を育て、学校での学習規律を整え、コミュニケーション能力の育成を推進する取組でございました。この取組は、家庭教育を支える子育てのための12か条とともに展開していきました。そして、言語



能力の育成を重点とした第4弾、言葉のチカラ・プロジェクトへと引き継がれ、現在に至っております。今年度よりくりちゃん元気いっぱい運動、子育てのための12か条の従来取組を整理、再編し、家庭・地域・校園の連携を強化するため、栗東子育て教育Nextプロジェクトを子ども青少年局と教育部で立ち上げました。福祉と教育が連携・協働しながら粘り強く取り組むことができる、我慢することができる、人と協力することができる、気持ちをうまく整理することができる等の非認知能力の育成を重視します。そして、教育大綱に掲げるゼロ歳から15歳に至るまでの一貫した子育て教育の指針として、栗東子育て教育ビジョンを作成し、家庭・地域・校園が共有しながら心豊かにたくましく自立し、共生できる子どもの育成を目指します。

このビジョンは配付させていただきましたように、ゼロ歳から15歳までの育ちの一覧を一面の図表として発達の連続性と非認知能力の育成過程を視覚化しております。ビジョン作成に当たりましては、子育て教育連携推進協議会を立ち上げ、3つの作業部会を置きました。幼児期部、接続期部、学齢期部に分かれ、推進協力委員の指導、助言も頂きながら子育て教育連携推進チーム会議、子育て教育連携推進協議会で協議を重ね、素案を作成し、関係団体への意見聴取を行い、本日試案として総合教育会議に提案させていただくことになりました。次年度は試案を基に各中学校区において実践を進める予定でございます。具体的には家庭・地域・校園でビジョンを共有し、発達の連続性を重視します。そしてゼロ歳から15歳までの行動を習慣化し、各段階での一貫した働き方を推奨します。ここ数年間は実践・交流を重ね、課題を整理し、具体的な取組や連携の方策を検討・協議する中で修正を加えながらよりよい栗東子育て教育ビジョンにしていきます。よろしく願いいたします。

以上でございます。

(議長：野村市長)

ただいま栗東市子育てNextプロジェクトについての説明があったんですけど、説明何か補足がありますか、いいですか。

今の関係について、何か御質問、御発言、御意見ございましたらお受けしたいと思いますが。はい、お願いします。

太田教育長職務代理者

栗東市では、市民の皆さんに安心して子育てに取り組んでもらいたい、また保育園や幼稚園、小学校、中学校の先生方と保護者、地域がスクラムを組んで保育・教育に励んでもらいたいと願って、子育ての要点をまとめた栗東市子育てのための12か条の取組が始まったと思います。その取組から今回子育て教育Nextプロジェクトを立ち上げた経緯を聞かせていただきたい

と思います。

(議長：野村市長)

それでは、平子参事。

平子学校教育課参事

資料としましては、栗東子育て教育N e x tプロジェクトの冊子の1ページから3ページを御覧ください。

先ほど説明させていただいたところと重なるかもしれませんが、栗東市独自の子育て・教育連携事業のくりちゃん元気いっぱい運動は、第1弾、早ね・早おき・朝ごはん、第2弾、きらりフルチャレンジで、子どもたちの生活習慣と学力の向上に向け、家庭・地域・校園の三者が協働しながら推進していくことを重視した取組でございました。その後、市内で度重なる子どもの問題行動について、予防的・積極的対応を求める本市青少年問題協議会の提言を受け、感謝や反省の態度の醸成を目的とした第3弾、ありがとうが言える子育てを取組に加えることになりました。この取組は、学校での学習活動を支える規律やコミュニケーション能力の育成を家庭・地域と校園が一体となって推進する、子育てのための12か条の取組として発展しました。そして、外国語を含めた言語能力の育成を重点とした今般の学習指導要領の改訂に伴い、豊かな体験を基盤に、図書館教育、外国語教育の振興を図り、教育活動全般でことばのチカラを高める第4弾、ことばのチカラ・プロジェクトをスタートさせました。このようなくりちゃん元気いっぱい運動を見直し、整理・再編し、家庭・地域・校園の連携を強化するため、今回、子育て教育N e x tプロジェクトを子ども青少年局と教育部で立ち上げたということでございます。

以上です。

(議長：野村市長)

議会でもこれは子どもが生まれてから一貫した教育の必要性というものを質問いただけてまして、このことを教育長なり、また全体皆様方と御相談した結果、こういう形で方向づけをしていただけたというふうに思っております。十分ちょっと課題等はあるとは思いますが、前向きにとりあえずやってみよかないぐらいのつもりでちょっと行かせてもらえたらありがたいなというふうに思います。いかがですか。

太田教育長職務代理者

はい、ありがとうございます。

(議長：野村市長)

ほかにございますか。

はい、朽木委員、どうぞ。

朽木委員

今回の子育て教育N e x tプロジェクトの立ち上げですけれども、ちょうど1年ぐらい前ですかね、草加市へ視察に、先進地視察という形で草加市の教育委員会のほうの取組を参考にと行うことで行っていただいたというふうに記憶をしておりますけれども、そのあたりの具体的な部分につきまして、ちょっと教えていただければというふうに思います。よろしくお願ひします。

(議長：野村市長)

具体的なことということで、今、向こう行かはった時に、それで何をどういうふうにするかということやと思ひますけど、御説明お願ひします。

中川学校教育課課長補佐

今、朽木委員のほうからお話ありましたように昨年の1月15・16日の1泊2日で視察のほうに参加させていただきました。きっかけとしましては、本当に議会の議長のほうからのお勧めもあり、議員のほうで行ったことがあって、非常に優れた取組があるからということでお誘ひを頂いたという流れです。

その中で、草加市の方々にお聞きをする中で、まずきっかけとしまして、草加市がなぜこんなような教育に力を入れたプロジェクトを立ち上げたかというところからお話をいただきまして、実は草加市は6つの市に隣接していると、一番下は東京の足立区に当たるんですね。そうしますと、人口を奪い合う状況がありまして、その大きなファクター、要因として子ども、教育というのがすごく大きくて、教育なら草加市、このイメージをばんっと前面に出したいということでは教育に力を入れていくということを始められたというようにお聞きしています。

その中で、1つ大きな影響力を持っておられたのが無藤 隆さんといひまして、白梅学園大学の先生で、教育心理学、特に幼児教育のほうに精通された先生がアドバイザーとして就かれたときに、子どもたちを育てていく大事な時期ってというのは実は幼児期であって、そのときにつけた資質であったり力ってというのがその後の人生の成功であったり夢の実現に大きく関係するということをお言ひされまして、それを受けて草加市としてはゼロ歳から15というイメージをまず持たれたと。その次に、草加市には11の中学校がござひますが、この11の中学校区ごとにゼロ歳から15歳までの教育をちゃんとつないでいく取組をする、そして年に1回発表大会をもってそれぞれの成果を確認し合う、そういった仕組みをつくられている、この中学校区というのも1つ大きな鍵になっているかと思ひます。

最後にです。このゼロ歳から15歳までを一貫するというのは、言葉で言うことは大変簡単なんですけど、幼稚園、小学校、中学校、そして保育園、

そういった異なる組織が同じような目標、同じ方向を持つということ、大変難しい。その中でいわゆるチャートというんでしょうか、地図というのか、こんなふう育てていこうという一覧をつくるということに大変時間をかけられました。お聞きしますと、原案が出るまでにやっぱり1年、2年、そして最後仕上がるまでには4年程度の月日をかけておられるというのが資料の中から読み取れるものでございます。そういったものをですね、我々栗東市としてぜひ学ばせていただこうと。そして草加市の方々にもぜひこれを使わせていただきながら、栗東市の教育の仕組みについて改善を進めていきたいということとその場の協議の中でも多くの方に言っていただきまして、草加市もぜひ応援するというお答えを頂いておりまして、そこで栗東市の先ほどのN e x tプロジェクトが生まれたという流れになっております。

以上です。

(議長：野村市長)

朽木委員、いかがですか。よろしいですか。

そうしたら、ほかに。

太田委員、どうぞ。

太田教育長職務代理者

今回、子育て教育N e x tプロジェクトについて、どんな取組をされてきましたでしょうか。

(議長：野村市長)

平子参事、どうぞ。

平子学校教育課参事

資料としましては、栗東子育て教育N e x tプロジェクトの冊子の4ページから6ページに記載させていただきましたので、御覧いただければと思います。

今回、子育て教育N e x tプロジェクトを推進するに当たりまして、3つ目標を設定させていただきました。

1つ目は、非認知能力の育成を重視し、ゼロ歳から15歳に至るまでの一貫した子育て・教育の指針として、栗東子育て教育ビジョンを作成すること。

2つ目は、栗東子育て教育ビジョンを作成する中で、第1弾から第4弾までの、先ほどもお話をさせていただきましたけども、くりちゃん元気いっぱい運動及び、子育てのための12か条など、従来の取組を整理・再編すること。

それから3つ目は、栗東子育て教育ビジョンを教育委員会事務局と子ども青少年局の各課が協働して作成し、この取組を通して、それぞれの組織の仕組みと使命を理解し、一層の連携と協力を推進することという3つの目標を

立てました。

今年度も、おおむねその目標は達成できたと思っております。

具体的な動きとして、4月に教育長・教育部長・子ども青少年局長と事務局が方針を共有させていただきました。そして、第1回の子育て教育連携推進協議会を開催し、推進協力委員を委嘱させていただき、作業部会も立ち上げました。さらに、推進協力委員の協力のもとで、栗東子育て教育ビジョンの作成に向け、作業を重ねてまいりました。その中で、子育て教育連携推進チーム会議、それから子育て教育連携推進協議会での協議、各団体からも意見徴収を行い、本日の総合教育会議を迎えております。

特に、栗東子育て教育ビジョンにつきましては、今回は、試案という形で提案させていただきたいと考えております。今後、各園、各校で実践を重ねていただき、課題と成果を明確にし、修正を加えて、よりよいビジョンにしていきたいと考えております。

以上でございます。

(議長：野村市長)

太田委員、いいですか。

ほかに何かございますか。

聞いていてくれはるやろし、これぐらいにさせてもうて、一番最後にもし何かありましたら、また全体通して御意見いただければというふうに思いますが、この項についてはよろしいでしょうか。

それでは、議題3番目の「学校における働き方改革」につきまして、御説明をお願いします。

田中課長、どうぞ。

田中学校教育課課長

では、お手元にあります資料を御覧いただきたいと思います。

こちらは、栗東市の学校の働き方改革推進協議会会長を大宝東小学校の小幡校長がされているんですが、こちらから教育長に答申ということで出しているものです。まずそこを読み上げをさせていただきたいと思っております。

令和元年5月16日に諮問を受けた以下の事項について、この以下の事項というのは、当市が取り組むべき学校の働き方改革の推進に向けて総務機能強化を図るための、事務職の業務改善及び教頭、教務等との事務分掌の再編についてということでございました。それで、推進協議会では、私たち栗東市学校における働き方改革推進協議会は、4回にわたる協議会を開催し、協議検討を進めてまいりました。その結果を栗東市立学校業務標準表（試案）（別紙1）、栗東市立小中学校共同学校事務室設置要綱（案）（別紙2）と

して取りまとめました。また、業務改善を推進するためのICTツールの活用に向けてについては、栗東市小中学校教頭会に協議を委託し、その結果を意見書別紙3として提出いただきました。以上の提出をもって答申といたします。

栗東市教育委員会教育長、福原快俊様ということでございます。

少し説明をさせていただきます。

まず、栗東市立学校業務標準表（試案）というのは、少しめくっていただきまして、ちょうど3枚目に当たるところにその試案が載っているんですけども、各小中学校12校あるわけですが、各校の教頭、教務、教務主任が行っています業務には少し学校ごとに差がありましたので、そこを洗い出してこれは教頭の業務、これは教務主任が行う業務ということをしかりと標準化をしていこうと、そういうことをすることで、学校が異動になりましても迷うことなく仕事がしかり行っていくだろうという、それを目標にして行ってまいりました。

2つ目の、共同学校事務室につきましては、後ろから数えまして、すみません、ページ数を打ってないので、ちょっと見ていただきにくいかもしれませんが、4枚目を御覧いただきたいというように思います。

共同学校事務室を設置することによって、2つのことが改善解消できるだろうというふうに考えております。まず、事務職もベテランの者、またそれから初任者の者というふうに経験年数が大きく異なってまいりますので、事務職の中でOJTということで、事務職が教え合ったりということができないのではないかと。また、仕事を正確に速く行うために、例えば3校の事務職員が1校に集まって作業します。例えば1人の者が出張関係のものを全部3校分やっていく、それでほかの者がまた別の仕事を3校分やっていくということで、1つの作業を3校分やることで速く正確にできるのではないかとということを目指しているものでございます。

最後になりますが、学校のICTツールの活用に向けてということで、こちらは最後の紙になります、別紙3ということで御覧いただきたいと思ます。

2つの内容について意見書を出していただいております。これは真ん中ほどにあります記というところの下にあります、1つ目が出退勤の管理システムの導入についてということでございます。こちらは出退勤の管理システムを早期に導入をしていただきたいという希望でございます。また、2つ目が統合型校務支援ソフトの導入についてということで、こちらは教頭会のほうでも2者を、2製品を比較、検討をしていただいたんですが、そちらの最終決定については事務局のほうにお任せしたいと。ただ、それを研修する期

間であったりとか、そのように教員が困らないような支援を行ってほしいということで、意見書を頂いております。

説明は以上でございます。

福原教育長

ありがとうございます。ただいまの働き方改革の説明がございましたが、御意見等ありましたら御発言のほうよろしく願いいたします。

田中委員さん。

田中委員

栗東市としては、事務職、教頭、教務の事務改善というところを窓口にして、学校の働き方改革という取組をしてくださったと受け止めました。その取組は一般の教諭の方たちにどのようなよい影響、メリット等が見られたかどうかを教えていただきたいと思います。

(議長：野村市長)

はい、それでは田中課長、お願いします。

田中学校教育課課長

今御質問いただいたことについて一例を申しあげたいと思います。もう数年前になるんですけれども、学校のキャビネットをしっかりと整理していきましょうということで各小中学校のキャビネットを、例えばこの番号のものはこの資料を入れましょうということで整理をしていたんですが、やはりそれがちょっと年数がかかりたちますので、少し雑然としてたりとか、各学校によって分け方がちょっと違ってきたりということがございました。そこをもう一度しっかりと分けていくっていうこと、仕分けをさせていただいて、それによって文書がどこにあるのかということがまたはっきり分かる、またそれを見つけるための時間がかからないということ等を今行ってきまして、随分それですっきり、また時間短縮にもつながっているということを学校から聞いているところでございます。

田中委員

引き続き、栗東市の市費採用で事務職員さんの採用というのは継続して行われているんでしょうか。

(議長：野村市長)

継続して行っております。

田中委員

ありがとうございます。大変お礼を申しあげます。安心をいたしました。

(議長：野村市長)

この前もちょっとそれを新たに小学校の教科担任の関係に絡んで、ちょっと少しだけですけど、できるだけやけどごめんって言いながらつけさせてい

ただいている経過もございますので、そこは御理解いただけたらと思います。私が言うたほうが信憑性あるでしょ、そこは。

ほかに何かございますか。

内記委員、どうぞ。

内記委員

今の田中委員と同じような質問になるんですけども、今回の質問がですね、学校の働き方改革の推進に向けてということで、事務職の業務改善と教頭教務等の事務分掌の再編ということで答申なりまとめていただいたんですけども、全体的な仕分けをしていただけてますんで、それでいいと思うんですけども、田中委員が先ほど言われたように、一般の教員のいわゆる働き方改革については今後そういう諮問なり協議検討する計画はあるのか、今の整理でまとめられるのか、そこらをお聞きしたいです。

(議長：野村市長)

はい、どうぞ。

田中学校教育課課長

すみません、少し今の御質問とは外れるかもしれませんが、平成30年度の3月に自動応答機能付きの電話を入れていただくということで、夜の7時以降についてはもうそれで電話対応を保護者さんにはさせていただくと。もし何か緊急のことがありましたら、栗東市の学校教育課または市の代表のほうに電話をいただくということで、電話をいただいたらその内容によってその学校の管理職に回させていただくということで対応をさせていただきました。また、平成30年度の5月からですけども、部活動のほうを月曜日から金曜日の課業日の中で1日お休みを取る、また土曜日日曜日も必ず1日お休みを取りましょうと。それから朝の練習はなくしていきましようというそういう取組をしまりました。このことで、随分教員の勤務時間というのが短縮が図れてきたというようには考えているところでございます。ただ、ここはゴールではございませんので、今後もその今、取組をしているところを見ながらしっかりと検証して取組は進めていくべきだというふうに考えているところでございます。

(議長：野村市長)

いいですか、内記委員やったら栗東市職員の働き方改革も考えよって言われるかと思ったんですけど、なかなか職員がみんなおる中で、ちょっと先生方のだけは言いにくいさけ、これは出すだけにしといたらどうやと私も言うてたんですけど、こういうことも全部ひっくるめていろんな形でみんなを取組を進めていく、誰かだけがもちろん一生懸命、自分が覚えていくために自分がやっていくために一生懸命やることですけど、子どもたちのために頑張



っている先生方にいろいろ対応はしてあげたいという思いはみんなでも共通していますので、これからも取組を進めていきたいと思えます。

ここにいはる職員皆さんにもやっぱり職員の働き方改革も考えてやらなあかんなど。これを見ながら私も考えていますので、十分御理解をいただけますようお願いを申しあげたいと思えます。ここの部署についてはいいですか。何か、ございますか。

はい、どうぞ。

田中委員

小学校、中学校、それから園も含めて今年1年コロナで、コロナ感染増大予防でいろんな取組が狙い、目的は達成するんだけど、方法としては今まで従来やっていたのをいろいろ工夫してしていただいてたという、それはマイナスに取らないで、それを今年取組を活かしてそれで働き方改革を、先生方の働き方改革につながるよう、しかしながら子どもにつける力はきっちりつけていくという新たな方法、手法、狙い達成に向けて、そのこともコロナでマイナスばかりでしたけれども、やっぱりプラスに変えていくっていうチャンスであろうかと思えますので、その辺も考えに含んでいただけたらありがたいと思っています。よろしくお願ひします。

(議長：野村市長)

田中委員、ありがとうございます。今のは次につながるええふりを頂きまして、今、働き方改革についてはここまでとさせていただいて、昨年度の総合教育会議の中で委員の方からICTの環境整備について御意見を頂いておられますので、現在の状況、これはだから今、先生がおっしゃるように、コロナ禍の中で、国のほうの支援もかなり進んできましたし、全体、どんだけできるかというようなことをやらせていただくのに大変重要なターニングポイントになったかなというふうに思っています。この進捗状況について、報告いただきたいと思います。

はい、課長。

田中学校教育課課長

今、市長のほうからお話し頂きましたように、今年度GIGAスクールに伴いまして、1人1台のタブレットをということで取組を進めてまいりました。もう今、既に各学校のインターネット環境については工事は全て終わっております。今、タブレットを充電するための充電保管庫のほうを各学校のほうに設置を進めておりまして、全て完了する予定でございます。この後、タブレットを各学校に納入し、またそれをしっかりと使えるように設定作業というのが一緒になってきますけれども、ここをできるだけ早くするように今、業者のほうと調整中ということで、今年度中にはタブレットが子どもた

ちに使ってもらえるようにということで計画を進めてまいっているところでございます。

ただ、子どもが使うに当たりましては、やはり教員が使えないといけないということで、教員の研修のほうも進めておりまして、1月26日にはGoogle社に来ていただいて、教員向けの研修を1日かけて各学校から代表1名から2名、3名来てもらって進めたところでございます。また、昨日は市の初任者研修があったんですが、そちらにも野洲の総合教育センターのほうから講師に来ていただいて、タブレットを使った授業づくりということを実際に事細かに教えていただきました。それを活用することによって、これまで例えば国語の絵ですと、それを拡大コピーを取って白黒のものに色を塗ってというような非常にアナログの作業していたわけですが、本当にタブレットの写真を撮ってぱっとプロジェクターに写すというようなことも本当に大きな働き方改革につながってくるというふうに思いますので、今後、使い方は非常に勉強しないといけないですが、期待をしているところでございます。

以上でございます。

(議長：野村市長)

いかがでしょうか。田中委員。

田中委員

ありがとうございます。

(議長：野村市長)

ICTの関係、内記委員からも大分御指摘をいただいて、ちょっとずつ取り入れてきた経過もあるんですけど、いかがですか。

内記委員

ありがとうございます。今後ともよろしく申し上げます。

(議長：野村市長)

皆さん、いかがでしょうか。

私から教育長にいつもお願いを無理を言うてますのは、今、中学校3年生の子がもうこの2月ぐらいまでで入れてくれへんだら、さわれないと。せっかくこのICT環境になっていくのに、栗東市どうやなって後から思うんやったらかなんさけ、何とかぎりぎりでもちょっとそこに体験できるようにしてやってもらえませんかということはいつも言うてるところです。そこだけちょっとどんな状況かお教えをいただくとありがたいです。

田中学校教育課長

今、市長が御心配いただいているところにつきましては、本当に私たちもやきもきしているところでございますが、やはり中学校の3年生というのは

最重要に考えまして、中学校のほうから優先的に機器を導入するというところで今業者のほうと調整をさせていただいているところでございます。

(議長：野村市長)

そんなところでございますので、また皆様方いろんな形で十分そうした教育に触れていただいて、それ以外にもやっぱりこういうことが生活になじんでいけるように最大限努力していきたいと思っております。なかなか全体の中でそこに集中するということが難しい状況の中で、ふだんからスマホに慣れ親しんでいる子どもたちのほうが早いかもしれません。でもそこから先にやっぱり見つけ出すものが見出せたらいいなというふうに思っております。どうぞ御理解をいただきますようお願い申しあげたいと思います。

最後に、その他、何かございますか。

教育長、どうぞ。

福原教育長

その他というところですが、今の市長に御心配いただきました1人1台のタブレットの活用ということにつきましては、先ほど教育目標の中にも具体的な取組の中に挙げさせていただきましたが、これまで不登校の子になかなかアプローチができなかった、家庭訪問しても会えなかった、電話をしても出てくれない、こういう子たちとICTを使った新しい形のコミュニケーションができるような、そういうことについても今後研究して取り組んでまいりたいなというふうに考えております。

(議長：野村市長)

よろしいでしょうか。

田中委員、どうぞ。

田中委員

福原教育長様は、就任以来、小学校の高学年に学級担任の者が四六時中指導するのではなくて、ほかの職員と一緒にそのクラスにいろいろ入る交換授業という言い方もあるんですが、そういうことをやっていきたいということで各校長会と教頭会等で発信をせずと進めていただいていた経緯があります。二、三日前に新聞に中教審の答申で2022年をめどに五、六年生には教科担任制をとというような動きがありました。まさに福原教育長様が言っておられたことが文科省のほうで発信されたっていうようなことで、とても私はうれしく思ったんですが、22年めどということではありますが、来年度等のもしも教育長様としてのお考えがありましたら教えていただきたいと思っております。

(議長：野村市長)

どうぞ。

福原教育長

ありがとうございます。

実際に教育目標の中の学校教育の充実という中でも、来年度の教育目標の中にも小学校の教科担任制の一部導入という形でそれを目指して推進の中学校区に加配をとというようなことを書かせていただいておりますが、これについても市長のほうにも応援をいただいておりますので、教科担任制が今現在の学校、小学校でも工夫をして取り組んでもらっているので、それに少しでも加速ができますような形で実施をしてもらえたらなというふうに思っております。ありがとうございます。

(議長：野村市長)

さっきちょっとつけた言うてましたやん。これから議会のほうで御理解をいただけるように最大限努力していきたいと思えます。また、部長が答弁ちゃんとしてくれると思えますんで、しっかりとその辺のことはみんなで整理をして、そして応援をできるような環境、つくってきたいと思えます。これは一緒になってやっていかなあかん課題だと思っておりますので、さっきの働き方改革にもつながるし、子どもらの学力を向上させるためにもつながってくるし、いろいろそういう面は大きくあると思えますので、まだちょっとすみません、議会のほうに提案もしていないので、まだ内々でよろしく願いしたいと思えます。これだけ総合教育会議の中で言っていてこんなこと言ったらあかんねんけど、お願いしたいと思えます。

ほか、よろしいでしょうか。

はい、どうぞ。

太田教育長職務代理者

今のこのタブレットの件でちょっと水を差すような言い方をするので、申し訳ないんですけど、今の現代の子にタブレットはもうスマホを使いこなしている子どもたちにしてみれば、何の問題もないことだと思うので、重たい教科書、参考書なりを担いで小学校、中学校長い距離を歩いていくことを考えればタブレット1つでというのは、すごくいいことだと思うので、どんどん市長のほうに進めてもらって、現実化を早急にさせていただけたらありがたいなと思うのは事実なんですけども、ただ、そうなってくると、私たち自身もそうなんですけど、ものを書くこと、字を書くこと、漢字を覚えることが多分だんだんともうスマホでぱっとしたら出てくるので、それがだんだんと劣っていつていることは事実だと思うので、そこを逆にもうちょっとまた力を入れていただくような取組も、働き方改革にはちょっとどうなのか分からないんですけども、そちらのほうももっと、日本人として字を書くこと、日本語覚えること、字を書くこと、すごくいいことだと思うので、その辺もま

たちちょっと力を入れていただけるように頑張っていたきたいなというふうには思います。タブレットのほうは早急に2月でも1月末で入れていただくと、うちの子は最後なのでよろしくお願いします。

(議長：野村市長)

どうぞ。

田中学校教育課長

ありがとうございます。タブレットが入ったからといって、文字を書くということがおろそかになるというのは、今、御指摘いただいたとおりだと思います。やはり教育の中で不易と流行というところがございまして、やはりこれまで培ってきたものの中で、これはやっぱり残していかないといけない、変えてはいけないというところについてはなくすべきではないというふうに考えているところでございます。ただ、今後入ってくるタブレットを使いながらこれまで培ってきた教育の財産とタブレットをミックスしながら、よりよい教育をつくっていくということが今後大事になってくるというふうに思いますので、そこを一層頑張っていきたいというふうに思います。

(議長：野村市長)

それでは、まだまだ御意見もあろうかと思いますが、一旦こうした状況で総合教育会議の議題のほうは終わりたいと思いますが、いかがでしょうか。まだその他ございますか。事務局レベルのほうでその他あったらどうぞ。

ほかの課長さんやら皆、部長さんも局長さんもおいでですけど、どうですか。いいですか。

ここに置いてあった栗東駅伝の説明は誰もせんでもええのかいな。机の上に置いてあったやろ。ほんでちょっと今振ってんけど、今こっち向いて。口述にはなかったけど、ちゃんと説明をしといてもらおうと思って。

片岡教育部次長

すみません、栗東駅伝のほうにつきまして、毎年開催させていただきます。今年度につきましても2月7日に開催をさせていただくわけですが、コロナの感染拡大防止を図るため、毎年教育委員さんのほうに来ていただいて、選手のほうに激励を頂くところではございますですけども、今年度につきましては、感染拡大を防止することですので、開会式を縮小した形で行わせていただくということですので、教育委員さんのほうには御臨席をいただかない形を取りましたので、どうぞ御理解のほどよろしくお願いいたします。

以上でございます。

(議長：野村市長)

分かったけど、普通に見に行くわ言わはったら、別にそれはそれでかまへんのやろ。

片岡教育部次長

それはまた来ていただいても大丈夫です。

(議長：野村市長)

御臨席いただかないって言わんと、そういうときは来賓としてのそして主催者としての出席というのはお願いはしませんが、またもしお時間がありましたらのぞいていただいたらというふうに思います。

コロナで大変なときに、まだそんなことしてんのかって言わはる人あるんですけど、これからコロナがね、ワクチンができてなくなるわけじゃないので、私らができることはwithコロナでいう生活がこれからどういうふうにできるかということを考えていく中で、規模を縮小しても形は変わってもやっていきたいと、思います。

それと、もう一つお願いは、これから卒業式それから卒園式がございます。ここについてももう決められた限られた方々にしかそこに御出席をお願いしない状況が出てこようかと思いますが、ここは皆様方開催をできる喜びをまず第一として皆様方に御理解をいただいて、しっかりと進んでいきたいと、これからの子どもたちの一つの門出を祝ってやりたいと、このように思っております。御理解と御協力をよろしくお願いを申しあげたいと、思います。

ということで、私から、大変拙い進行で御迷惑をおかけしました。先ほどちょっと表出たのは、おトイレもありますが、3人ちょっとコロナウイルスで栗東市じゃなくて、県内が3人増えて30人今日なりました。栗東市は今日は幸いにしてなしでございます。今のところ、病院からぼんと出てくる可能性が出てくるかもしれませんが、今のところ30人というところでございます。こういう状況を毎日、ここでは365日続けておりまして、いろんなことが何が起こってくるか分かりませんが、精いっぱい頑張っていきたいと、思いますし、こんなもんには負けませんので、いろんなことで皆様方には御理解と御協力をお願いを申しあげます。

それでは、進行のほう事務局に替えさせていただきます。

福田教育総務課長

どうもありがとうございました。本日様々頂きました御意見を踏まえまして、今後取組を進めていきたい、こんなふうに考えております。

それでは、閉会の挨拶を教育長からお願いいたします。

福原教育長

皆さん、どうも長時間にわたりまして、御審議賜りましてありがとうございました。この総合教育会議は、いつも市長がおっしゃっておりますように、

もうこんな会議せんでも大丈夫やろう、いつも教育委員さんにも市長の御意見がきちっと思いが伝わるようなお話もさせていただいていますので、要らんのじゃないかと言っていただくんですが、逆にまた市長のほうからもいろんなお話をさせていただける機会があればということで時間の大変お忙しい中無理をしていただいているところでございます。今年度もまた来年度に向けましても、このコロナのW i t h コロナと今ありましたが、W i t h コロナがアフターコロナになりますように祈りながら、来年度に向けての準備を進めて栗東市の子どもたちが元気に学んでくれますよう、育ってくれますように願いまして、今日のお礼の言葉にさせていただきたいと思います。今日は本当にありがとうございました。市長ありがとうございました。

福田教育総務課長

それでは、これもちまして令和2年度総合教育会議を閉会させていただきます。どうもありがとうございました。

閉会宣言 16時 15分